第十六回　小中学生

ふるさとの詩

入賞作品集

羽 生 市

第十六回　小中学生「ふるさとの詩」入賞作品集　目次

◎　小学生の部（五十音順）

太田玉茗賞	秋祭り	柿沼　孝星	手子林小学校	六年
宮澤章二賞	ぼくは小がく一ねんせい	多田　伊織	新郷第一小学校	一年
優秀賞	私のふるさと	清水　結実	手子林小学校	六年
	いちごがり	細井　美佑	村君小学校	一年
	夏の音	山本　壮真	須影小学校	五年
奨励賞	おばあちゃんのまほうの手	郝　茉白	手子林小学校	二年
	ねこのあめちゃんがおしえてくれたなみだ	野本　望乃	手子林小学校	二年
	生きもの王国	山田　周明	須影小学校	二年
	ゆめのはたけのはいたつやさん	渡邉　沙恵	須影小学校	一年
	自転車の旅	渡部　涼平	手子林小学校	五年

その他の良い作品

◎　中学生の部（五十音順）

太田玉茗賞	一瞬を逃がすな	渡邉　俊介	西中学校	二年
宮澤章二賞	久しぶり	村田　心優	南中学校	二年
優秀賞	私たちの音	下條　愛未	南中学校	二年
	希望をのせて	福田　彩陽	南中学校	一年
	春光	吉成　美咲	南中学校	一年
奨励賞	友達と部活	今西　　舞	西中学校	二年
	お盆（祖父との思い出）	大川　真未	西中学校	二年
	松並木	須永　結太	西中学校	一年
	田舎巡りサイクリング	福田　孝喜	西中学校	一年
	妹と	渡邉　陽菜	南中学校	三年

その他の良い作品　22

◎小学生の部

太田玉茗賞

秋祭り

手子林小学校　六年
柿沼　孝星

ドンドンドン　ピーヒャララ
自然と動きだす　体
まちにまった　お祭りだ
自分のはっぴをひるがえし
じまんのげたをつっかけて
近くの神社へかけていく

ドンドンドン
知ってるおじさん調子をとって
ぼくの心もおどりだす
ピーヒャララ
笛の音色が夜空に響き
秋の夜空にきえていく

見上げると大きな月が東の空で
小さな神社を照らしてる
ほのかな光に照らされた
神社は獅子を迎える準備
棒術士さんに呼ばれると
「やるかい？」
と、刀をわたされた
おどろきと、
手に伝わる刀の重さ…
歴史の重さ
うまくできるか不安な自分

ドンドンドン　ピーヒャララ
とつぜんなった笛　太鼓
獅子の太鼓にはげまされ
体が自然に動きだす

夢か　現か　幻か　秋の神社に響く音

獅子を迎えたぼくの棒術

宮澤章二賞

ぼくは小がく一ねんせい

新郷第一小学校　一年
多田　伊織

ぼくは小がく一ねんせい。
ぴっかぴかの一ねんせい。
だから、なんでもひとりでできる。
ごはんをたべることも、はみがきも、
がっこうにもじぶんのあしであるいていく。
すこしらんどせるがおもいけど
へっちゃらだ。
だって、おにいさんやおねえさん
だいすきなともだちとあるくみちは
とてもたのしい。
いぬやねこ、はなやむし。
あめのひのみずたまり。
なんでもきらきらしてみえる。
まいにちぼうけんしているみたい。
それに、おじいちゃんやおばあちゃんが
はなしかけてくれるんだ。
にこにこわらって、おはよう。こんにちは。
みんなともだちみたいだな。
あるひ、おかあさんがいった。
ぼくのめがきらきらしてるって。
ぼくはうれしくなって、にこっとわらった。
ぼくのこころは、
まいにちどきどきわくわくしている。
あしたはどんなことがあるかな。

優秀賞

私のふるさと

手子林小学校　六年
清水　結実

私は羽生生まれの羽生育ちの　手子林っ子
何か特別なわけでもなく
思わずポロリと自然に出てくる言葉

おばあちゃん　「早くうわっぱり着ちゃえ」
私　「だいじゅ！これでよさげだよ」
おばあちゃん　「あーよいじゃねぇ」
「肩おっぺして～」
私　「どのへんおっぺすん？」
これが分かれば立派な羽生人
羽生弁がギュッとつまっている

ずっと気づかなかったけど
空気みたいで　体にしみついていて
私の生活の一部

無意識に使っている私の標準語

私を育ててくれた言葉
おばあちゃんのひざで聞いたときから
温かいひびきがいつまでも残っている
耳と心に残るやさしい引っかかり
まるで、私たちの合言葉のようにしっくり
とくる
今、気づいたよ
その言葉の数々には価値があること
その言葉から得られるやさしさと安心感
羽生に生まれ育ち
そこに生きる人たちがいる限り
永遠に語りつがれていく大切なもの

たくさんの人に羽生の土地と人情の豊かさ
を知ってほしい
そんな、みりょくあふれる羽生に
みんな
「キヤッセな！」

いちごがり

村君小学校　一年
細井　美佑

わたしのだいすきないちご
うちのはたけにたくさんなってる
あかくてつぶつぶぴかぴかいちご
はっぱのうえにありさんいるよ
ありさんもいちごたべにやってきた
はっぱのしたにかくれんぼ
あかくておおきいいちごみつけたよ
ぽきっとゆびでとったら
ぎざぎざのはっぱがわさわさうごいた
あかくてつぶつぶぱくっとたべたら
くちのなかにじゅわっとひろがる
あまくておいしいいちごじゅうす
しろいいちごもみつけたよ
しろいいちごはこどものいちご
こんどはこっちのいちごをぱくっ
「さきっぽがあまいんだよ。」
おかあさんがおしえてくれたよ
おいしいいちごでおなかがいっぱい
あかくてつぶつぶぴかぴかいちご
らいねんもおくちいっぱいたべたいな

夏の音

須影小学校　五年
山本　壮真

今日も朝から雨の音
休み時間はまた教室か
がっかりしながらかさと登校
どんよりな空をにらみつける
最近　太陽見てないな
かえるに　あじさい　かたつむり
みんな雨とお友だち

とうとう梅雨が明けました
テレビから待ちに待った言葉が聞こえた

今日は朝からいい天気
入道雲と太陽が青い空によく似合う
せみが喜び大合唱
夏休みにはなにしよう
流しそうめん　バーベキュー
うき輪　砂浜　海水浴
花火に　お祭り　かき氷

どろんこになって虫取り対決
クワガタ　とんぼに　かぶとむし
ぼくは太陽とお友だち

じめじめ　しとしと　ザーザーザー
みんな雨とお友だち

さんさん　じりじり　ぎらぎらぎら
ぼくは太陽とお友だち

ゲコゲコ　のろのろ　ぽつんぽつん
みんな雨とお友だち

ミンミン　パシャパシャ　ヒュードカン
ぼくは太陽とお友だち

奨励賞

おばあちゃんのまほうの手

手子林小学校　二年
郝　茉白

「お人ぎょうのようふくをつくって」
わたしはおばあちゃんにおねがいした
いっしょにみせに行って
わたしがじぶんでえらんだ
お気にいりのきじ
ようふくのデザインも
「こんなかんじがいいな」
ってリクエストをした！
それから、なん日かして
「できたよ」
と言ってもってきてくれた
わたしがおねがいしたとおりのようふく
「わぁーありがとう」
うれしくてすぐにお人ぎょうにきせてみた
かわいい！

おばあちゃんはすごいとおもった
ハンカチみたいなペラペラのきじを
本とうにようふくにしちゃった
みせにもうってない
わたしだけのようふく
そしてこんどはマスクをつくってくれた
わたしだけのマスク
せかいでたったひとつのものを
つくってしまうおばあちゃんの手は
まほうの手だとおもう
ありがとう！大すきなおばあちゃん
こんどはわたしといっしょにつくってね

ねこのあめちゃんが
おしえてくれたなみだ

手子林小学校　二年
野本　望乃

今でもはっきりおぼえているよ
二年前、そつえんしきのすぐ後の金曜日
あめちゃん、お年よりでしんじゃった

へやでテレビを見ていたら
ばあちゃんがよびにきた
「あめちゃんがあぶないかも・・・」
いそいで、パパとママと三人で
あめちゃんがねているそばにいった
しばらくするとあめちゃんが小さくないた
そしてうごかなくなった
うごかなくなったあめちゃんを見ていたら
しぜんになみだがあふれてきた
パパもママもないていた
どうしてわたしもないているんだろう
こんななみだはじめてだった
じ分の心がよくわからなくて

わたしはずっとしゃべりつづけた
四月になってわたしは小学生になり
そして今、二年生になった
今のわたしは知っている
なみだが出てしまうかなしい気もちのこと

あめちゃんがわたしにおしえてくれた
はじめてのかなしい気もちのなみだ
年中のとき、
行田のおばあちゃんがしんじゃったけれど
その時は出なかったなみだ
こうやって
ちょっとずつ大人になっていくのかな
あめちゃん、
たくさんあそんでくれてありがとう
これからもわたしは
ねこをずっとかっていくと思うけれど
あめちゃんのこと、
ぜったいにわすれないよ
またゆめであそぼうね

生きもの王国

須影小学校　二年
山田　周明

ぼくは夏になると
虫とりあみをもって出かける
みつけたよ
草むらをとびはねるバッタ
とんぼやちょうちょもとんでいる
田んぼの水の中をおよぐ
おたまじゃくしやゲンゴロウ
川の中でえものをまっているザリガニ
むかしは水がもっときれいで
お米が今よりずっと
おいしかったんだって
きこえたよ
木にとまってなくセミの声
田んぼからきこえるカエルの声
虫がとぶときの羽の音
しってるよ
生きものたちのいのちは
とてもみじかいってこと

だからつかまえたらすぐ
にがしてあげるんだ
ぼくが大きくなってもたくさんの
生きものたちにあえるといいな

ゆめのはたけのはいたつやさん

須影小学校　一年
渡邉　沙恵

「おーい！」
はたけからわたしをよぶこえがする
おじいちゃんがよんでいる
おじいちゃんのいるはたけにいってみると
とってもかわいいあかちゃんスイカ
おおきなおばけみたいなスイカ
はなのたかいにんげんみたいなナス
はなびのようにたくさんみのったプチトマト
かさのようにおおきなさといものはっぱ
ゆめのなかにでてくるようなやさいたち
いっぱいいっぱいなっている
みているだけでわくわくしちゃう
おじいちゃんがうまれてから
ずっとおじいちゃんといっしょのはたけ
このはたけにはおもいでがいっぱい
このはたけでうまれてきたやさいたち
とってもげんきでしんせんでおいしいよ
たべるとしあわせなきもちになるんだよ

まるでゆめのようなはたけだね
ゆめのはたけから
ぴょんぴょんでてきたかえるさん
かえるさんもここがふるさとなのかな
わたしにもふるさとがあるんだよ
みんなふるさとがあるんだね
ふるさとはたいせつなばしょなんだね
たくさんのおもいでがつまっているんだね
こんどはわたしのいえのはたけで
ゆめのようなおいしいやさいをとどけるね
ゆめのはいたつやさんになって
とどけにいくよみんなのおうちに
おいしいやさいを
たくさんたくさん
とどけるよ

自転車の旅

手子林小学校　五年
渡部　涼平

ぼくの休みの日の楽しみは
お父さんと出かける自転車の旅
朝早くから出発して色々な所に行った
羽生スカイスポーツ公園や加須未来館
行田埼玉こふんに古代はすの里
熊谷ドームや千葉県の関宿城
でこぼこ道や曲がりくねった道
きつい坂道や地ごくの向かい風
大変な道のりだ
こんな時は自転車なんて乗りたくない
でもたまにごほうび
追い風や下り坂は楽しい
遠くまで自分でこげた時の達成感
つかれた時のチョコレート
これがあるからがんばれる
土手を走る気持ちよさ
どこまでも行けそうだ
田んぼ道をこいで行く
静かだから色々な音がきこえる
飛行機の飛んでいる音
トラクターの動く音
風でゆれる葉っぱの音
カエルや虫の鳴き声
自然がいっぱい
上をむくと
太陽や雲がぼくを応えんしてくれる
それを感じて
ぼくはまたこぎだす

その他の良い作品

作品は羽生市ホームページでご覧いただけます。

題	学校名・学年	氏名
「ぼく達の先生は田舎教師」	三田ケ谷小学校　六年	岩﨑　朱里
春さがし	手子林小学校　二年	岡戸　孝太朗
忘れてはいけない大切な物	羽生北小学校　六年	木部　日良地
みんなに早くあいたい	手子林小学校　二年	小針　彩花音
ひいじいちゃんの手	手子林小学校　四年	高鳥　優空
サイクリング	手子林小学校　二年	田中　恒輝
あいいろの町	須影小学校　三年	西村　瑛太
ぼくのピニャータ	手子林小学校　二年	堀田　アンジェロ
きょうはぼくがうどんやさん	手子林小学校　一年	眞秀　陽大
いちねんせいになったぼく	手子林小学校　一年	持田　篤人
カラフル	井泉小学校　二年	矢島　光希

◎中学生の部

太田玉茗賞

一瞬を逃がすな

西中学校　二年

渡邉　俊介

白い光に包まれた体育館
なかなか中に入れず、体育館の外にいるぼく
体育館から絶え間なくもれてくる音
カコン、カコン、カコン・・・
軽やかな音から一瞬で切り裂く音
バッチコーン！
「決まった！」
一瞬時間が止まった
勇気を出して、体育館の中に足を踏み入れる
卓球部の先輩たちの気迫にあふれる声
小学校を卒業して一週間
たった一週間だけど
ぼくの世界は一変した。
これが中学校の部活
小学校の世界と違う一歩大人の世界

「よし、卓球部に入るぞ。」
「よろしくお願いします。」
声がうわずる。光がしびれる。
手から汗が出る。光がまぶしい。

毎日繰り返される練習の日々。
なかなか先輩のように
うまくボールを操れない
一球一球考えてボールを打ち返す
相手のボールの回転の仕方
ラケットの角度　打ち返す強さとタイミング
一瞬を逃がすな

そして卓球部、二年目
新一年生の入部
新入生の姿に一年前の自分を重ねる。
ぼくが感じた新しい世界は日常になったけど
あの日感じたあこがれや　新鮮な気持ち
一瞬止まった時間は
今でもはっきり思い出せる
そして、今日も自分に言い聞かせる
一瞬を逃がすな！

宮澤章二賞

久しぶり

南中学校　二年

村田　心優

「おばあちゃん、来たよー」
ガラガラと引き戸を開ける
しみついた線香のにおい
猫の二つの鳴き声
「久しぶりだねぇ
　あがらっせ」

私のひいおばあちゃんは八十七歳
いつも笑顔で迎えてくれる
「戦争中は大変だったんだよ
　本当にねぇ・・・」
また戦争の話
耳にタコができるほど聞いた
「そうなんだー」
私は返事をする

おばあちゃんは認知症だ
何でもすぐに忘れてしまう
今日会いに行って、次の日に会いに行っても
久しぶりになってしまう

毎日笑顔で迎えてくれるおばあちゃん
しわしわの手でお茶を出してくれるおばあちゃん
どんなに同じ話を聞かされたって
私は優しいおばあちゃんが大好き
長生きしてくれてとっても嬉しい

「戦争中は大変でねぇー」
「そうなんだー」
今日も同じ話を聞きにおばあちゃんちへ行く

「久しぶり
　会いに来たよ」

大好きだよ、おばあちゃん

優秀賞

私たちの音

南中学校　二年
下條　愛未

「カタカタカタ」
家庭科の授業で使ったミシンの音
でも私の知っている音は違った
「ダダダダダ」
家で使っている工業用ミシンの音だ

この音は私の子守唄
小さい頃祖父母が毎日踏んでいた

大きく響き力強い
床が震える様な迫力
私にとって心地よい音

今は家に一台しかないミシン
部屋の片隅で静かに黙って

今か今かと出番を待つ

「服を直したい」
そう言った祖父が踏む
あの懐かしい音
それが今日家中に響きわたった

「昔はあちこちからこの音が聞こえたな」
懐かしそうに言う祖母

今はなかなか聞こえない
私たちのミシンの音
大好きなふるさとの音

希望をのせて

南中学校　一年

福田　彩陽

夜、父が車を走らせた
国際宇宙ステーション
「きぼう」を見るために

土手まで行くと、すっかり景色が変わった
こんなにたくさんの星が見えるなんて……
こんなにキレイな夜景があるなんて……
そう思っていた時、私たちの頭上を
「きぼう」がキラキラと光り輝きながら
通っていった

私たちには可能性がある
私たちには光り輝く未来がある
私たちには希望がある
そう教えてくれているようだった

あっという間の時間だった
家族と感動した5分間は

「きぼう」からもらった
大切な夏のプレゼントになった

春光

南中学校　一年

吉成　美咲

「今日は　いい日だ」
玄関を開けるのと同時に
私は　そう思った
穏やかな風　美しい青空
柔らかく暖かな日差しは
周りの全てを包みこむ
真新しいシルバーの自転車は
麗らかな春の日を浴びて
キラキラと輝いている
通学路を確かめるため
この日　初めて　この自転車に乗る
いざ自転車の前に立つと
なぜか　とても大きく感じた
希望と期待　そして緊張と不安で
胸がいっぱいになる
慣れない新しい自転車にまたがり
ふらふらと漕ぎ始めた私は
力強くペダルを踏む
軽快に進んでいく
力いっぱい漕ぎ　中学校に着く
私はほっとし、　息を吐く
そこには青い空に映える満開の桜が
淡紅色の美しい姿は
春の日差しに喜び
新入生を心待ちにしているようだ
新しい仲間との出会いを思い描き
私も心が躍る
そして、私の中にあった緊張と不安は
この青い空のように晴れ渡り
希望と期待で満たされていく
私は　いつまでも忘れない
この春光を

奨励賞

友達と部活

西中学校　二年
今西　舞

緊張した
慣れない環境　慣れない生活
さらに部活動
大変なことだらけだけど
楽しいことだらけだった
友達がいたからだ
新しい初めて会った友達
幼稚園のころからの友達
小学校からの友達
みんなそれぞれ違うけれど
それが笑えるほど楽しい日々
暑くて練習をやりたくない日
寒くて凍えそうな日
試合で勝った日　負けた日
大きなミスをしてしまった日
コーチに怒られた日
もう疲れたと思う日
毎日がそんなことの繰り返しで
だけどそんな日こそ友達がいた
辛いことがあれば一緒に泣いて支え合い
おちこんでいれば、励みになる一言を
楽しいことがあれば、笑い合い
良いことがあれば、喜びを分かち合う
そんなことが流れていくうちに
大きなことを学んだと思う
授業や先生からでは学ぶことのできない
生きるうえで大切なことを
先輩になって約四ヶ月
まるで昨年のような慣れない感覚
目の前には大きな壁とたくさんの仲間
〝大丈夫、私達なら乗りこえられる〟
そう思った時
私達の背中を押すように
また新しい風が吹いた気がした

お盆　（祖父との思い出）

西中学校　二年

大川　真未

父が盆棚の準備を始めた。
仏だんから位はいを出して並べる。
お供え物を置いてご先祖様を迎える用意をする。
「夕方盆迎えに行くよ」と父が言った。
昔はきゅうりで馬をつくり、なすで牛をつくってお盆中はかざっていた。

今はわらの馬を持って、ちょうちんに火をつけて家に迎えている。
けむりにのってご先祖様が我が家に来た。
祖父と祖母は一年ぶりの家をどう思っているのだろう。
なんとなく誰かに見守られているような気がしてくる。
写真でしか見たことのない祖母は、優しい顔をしている。
祖父はよく体をきたえていた。

祖父の大きな背中がいつの間にか私より小さくなっていた。
祖父や祖母が生きていたら、一緒に食事をして、楽しいお盆だったのだろう。
食事をしながら満州での厳しい生活と恐怖命からがら引きあげてきた少年時代の話をよくしてくれた。
もっと戦争の話を聞いておけば良かったと思う。
祖父母との思い出を語らずにはいられないお盆。
平和な世の中になったことに感謝し、これからも成長を見守ってほしい。
盆送りは火をつけたちょうちんを姉が持ち馬を私が持った。
来年も待っていますと手をあわせる。
心が洗われた気がした。
父や祖父母が大切にしてきたことをこれからも受け継いでいきたい。

松並木

西中学校　一年

須永　結太

ぼくの家のすぐそばにきれいな松並木がある
秋には大きな大きな松ぼっくりがなる。
なんてことない松の木。
・・・だと思っていた。

祖父が教えてくれた。
「勘兵衛マツ」
っていう松なんだよ
日光東照宮を参拝する徳川家光の為に
忍城主が家臣の勘兵衛に
「松の植樹を命じたことから勘兵衛マツ」
って名前がつけられた。
でも、その勘兵衛マツも
百本以上植えたのに
今では黒松一本しか残っていない。
台風などで倒れてしまったらしい。

江戸時代の人が植えた松
お殿様の行列を見守った松
今では一本になってしまったけど
頑張って残ってくれたおかげで
昔の人に思いをはせることができる。
なんてことない松だと思っていたけど
とても頑張り屋の松だった。
これからもずっとずっと新郷の松並木を
守ってください。

田舎巡りサイクリング

西中学校　一年
福田　孝喜

自転車が好きだ
ずっと乗っていたいほど好きだ
僕の楽しみを呼び覚ましてくれる
いつか遠くまで行きたい
そうしたらどんな辛さも
風と共にはるかかなたに飛ばしてくれる

自然が好きだ
ずっと触れていたいほど好きだ
公園の植物はエメラルドに輝いている
種と未来へ飛びたい
そうしたらどんな悩みも
新たな道と共に吹き飛ばしてくれる

利根川が好きだ
ずっと見ていたいほど好きだ
複雑な気持ちをろ過してくれる
鉄道も走っていくところが好きだ
いつか北のかなたまで行ってみたい
そうしたら違う国々の人とも触れ合える

歴史が好きだ
ずっと住んで研究したいほど好きだ
僕の興味を呼び覚ましてくれる
羽生はかつて上杉氏が治めていた
城もあった
最高でたまらない。
水郷公園も
かつては大事な場所だったのかもしれない
調べたい
そうしたら博士になれるだろうか

素敵な自然
素敵な川
素敵な歴史

田舎が好きだ

妹と

南中学校　三年

渡邉　陽菜

太陽に向かって
並んで歩く
少しぬるい風
汗ばむ額
なつかしい気がして
思わず笑みがこぼれる
だんだんと
歩くリズムが
早くなり
はずむような笑い声が
ひびいて耳に届く
立ち止まると
真っ赤なリンゴのような
夕日がこちらを見ている
手でつかめそうなくらい
近い気がするのに
全然届かないくらいに
遠い気もする

久しぶりに
手をつなぐと
いつのまにか
私と同じ大きさの手
目線も近い
知らないうちに
成長していた妹
あたりはだんだんと
暗くなる
帰ろうか
そう言って
来た道を戻る
どこかの家の
夕飯の温かいにおいが
私たちの
鼻をくすぐった

その他の良い作品

作品は羽生市ホームページでご覧いただけます。

題	学校名・学年	氏名
最後の演奏	東中学校　三年	木宮　実羽
立ち止まって	南中学校　二年	小堺　梨杏
ここで生きているということ	東中学校　二年	鈴木　琴子
変わらない温かさ	東中学校　三年	関根　ほのか
夏の自然	南中学校　二年	萩原　優奈
ふるさとのさんぽ道	西中学校　一年	春山　良太
心が安らぐ木	南中学校　二年	吉成　勇人

第十六回 小中学生「ふるさとの詩」募集要項

利根川の流れに育まれ、四季おりおりの美しい自然に恵まれた羽生市は、日本の近代詩史に名をとどめた、太田玉茗を生んだまちであり、田山花袋の小説『田舎教師』のふるさとのまちです。

また、羽生市出身の宮澤章二は、市内の多くの校歌を作詞した詩人です。

この二人を郷土の偉人として尊敬し、顕彰するためにも、みなさんの「ふるさと」を一篇の詩にして、応募してみませんか。

●募集作品

・「ふるさと」を題材とした作品、または自由題
　（家族、友だち、自然、伝統行事など、心に感じたことを書いてください。）
・自作で未発表の作品（過去に書いた作品でも構いません。）
・応募作品数は一人１篇

●応募方法

・４００字詰め原稿用紙Ｂ４縦書、表題・氏名・本文で２枚以内の作品。
・各学校で取りまとめ、名簿を添付のうえ提出をお願いします。

●応募資格

・市内の小学生・中学生

●応募締切

・令和２年９月４日（金）

●発表

・令和２年１１月下旬に通知

●賞

・小学生の部・中学生の部
　各部門とも、太田玉茗賞　１篇、宮澤章二賞　１篇、優秀賞　３篇、奨励賞　５篇
・賞状と盾を贈呈します。

●その他

・応募作品の著作権は主催者に帰属し、作品は返却しません。
・入賞者の作品・氏名・学校名・学年については、広報及びホームページに掲載するほか、報道機関等に公表します。
・ホームページには、過去の作品も掲載されておりますので、参考としてご覧ください。

●主催　羽生市

●応募・問合せ先

羽生市役所秘書広報課　〒348-8601　羽生市東 6-15　Tel.561-1121(内線 204)

●第十六回　小中学生「ふるさとの詩」募集結果

小学生の部	１,０１２篇
中学生の部	１,１７５篇
応募総数	２,１８７篇

●選考委員（五十音順）

塩田禎子
根岸光子
萩原澄江
蓮見典昭
水野栄子

発行者　羽生市総務部秘書広報課
発行日　令和３年１月２７日